

James McNeill  
*Whistler*  
Retrospective

# ホイットスラー展

ジャポニズムの巨匠、  
ついに日本へ――

京都国立近代美術館  
The National Museum of Modern Art, Kyoto

2014.9.13-11.16

横浜美術館  
Yokohama Museum of Art

2014.12.6-2015.3.1

# 本展の見どころ

## Point. 1 国内過去最大級のホイッスラー大回顧展

アメリカ、イギリス、フランスの20か所以上の美術館など所蔵機関から、油彩・水彩・版画作品約130点が集結！日本では27年ぶり、世界でも20年ぶりとなるホイッスラー回顧展です。

## Point. 2 初期から晩年までの代表作が来日！

《白のシンフォニー No.2:小さなホワイト・ガール》、《ノクターン:青と金色—オールド・バターシー・ブリッジ》をはじめとする油彩の代表作や、版画家としても卓越した技術をもっていたホイッスラーのエッチングなどを展示。19世紀欧米画壇を席卷した巨匠の画業を網羅します。

## Point. 3 ジャポニズムの巨匠・ホイッスラーが影響をうけた日本美術も紹介

東洋の陶磁器など生前の所持品や、影響を受けた浮世絵も展示。ジャポニズムの画家のインスピレーションの源を感じてください。

“美の物語は、パルテノンの大大理石が刻まれ、  
北斎が、扇の富士山の麓に鳥の刺繍をした時にすでに完成している”  
(ホイッスラー「10時の講演」より)

アメリカ人画家のジェームズ・マクニール・ホイッスラーは、このように述べて、美の規範を西洋の古典と日本美術に求めました。

19世紀欧米の画壇において、最も影響力のあった画家の一人であるホイッスラーは、ロンドンとパリを主な拠点として活躍し、クロード・モネなど印象派の画家たちとも親交がありました。また、構図や画面空間、色彩の調和などに関して、日本美術からインスピレーションを得て独自のスタイルを確立したジャポニズムの画家として世界的に知られています。

ヴィクトリア朝の英国では、道徳主義を反映した、教訓的意味が含まれる絵画が隆盛を極めていましたが、ホイッスラーは、絵画は教訓を伝えるために存在するのではないと考え、「芸術のための芸術」を唱えた唯美主義を主導しました。

“音楽は音の詩であるように、絵画は視覚の詩である。  
そして、主題は音や色彩のハーモニーとは何のかかわりもないのである”

ホイッスラーはこう語り、1865年以降“シンフォニー”、“ハーモニー”、“ノクターン”といった音楽用語を用いて、絵画の主題性や物語性を否定しました。同時代の潮流である、リアリズム(写実主義)、ラファエル前派、古典主義、象徴主義、ジャポニズムなど、さまざまな要素を取り入れて、唯美主義者として独自のスタイルを確立し、同時代、そして次世代の芸術家たちに広く影響を与えました。

本展は、新たな芸術誕生の牽引者となった、ジャポニズムの巨匠・ホイッスラーの全貌を紹介する、日本では四半世紀ぶりとなる大規模な回顧展です。

### あひび 唯美主義

19世紀中頃、ヴィクトリア朝期のイギリスで起こった芸術運動。「芸術のための芸術(Art for Art's Sake)」をスローガンとして、芸術が、旧来の慣習や道徳的な規律を伝えることを目的とするのではなく、それ自体としての純粋な色と形的美、絵画においては視覚の喜びを追求することを目指した。



## ジェームズ・マクニール・ホイッスラー

James McNeill Whistler

ジェームズ・マクニール・ホイッスラー(1834-1903)は、アメリカ・マサチューセッツ州に生まれ、幼少期をロシアで過ごした後、1855年、21歳の時に画家になることを志しパリに渡りました。パリでは、シャルル・グレルのアトリエに通う一方で、ギュスターヴ・クールベと出会い、リアリズム(写実主義)に感銘を受けます。そのため、ホイッスラーの初期の油彩画やエッチングなどの主題の選択や表現には、クールベの影響が色濃く表れています。

1859年には、彼の初期代表作のモデルともなった異母姉のデボラ・ヘイデンと彼女の家族が住むロンドンへ移住します。フランス語が堪能であったホイッスラーは、以降「クロス・チャンネル(英仏海峡を往来する)」の画家として、英国とフランスを中心に活動しました。

ロンドン移住後は、ラファエル前派の画家たちとも親交を深め、芸術は芸術のために存在するべきであるという理念に従い、唯美主義のリーダー的存在として英国の画壇において重要な役割を果たしました。また、日本美術との出会いは、彼の唯美主義者としての信条をもっともよく表している一連の風景画「ノクターン」を描くうえでも重要でした。ホイッスラーは、ジャポニスムの代表的画家として世界的に知られています。

### “ダンディ”なホイッスラー

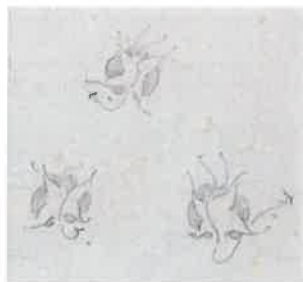
19世紀、ロンドンやパリを闊歩したのは、粹で皮肉屋、知的でエレガント、自らの美学に殉じる伊達男たち。人は彼らを「ダンディ」と呼びました。黒のフロックコートに身をつつみ、一房の白い前髪を上向きに整えた洒落た風貌のホイッスラーは、当時のダンディの代表的人物でもあり、自らモデルの衣装をデザインするなど、ファッションにもその美意識を発揮しました。また、ウィットに富むシニカルな弁舌や、結果的には破産に至ってしまったほどの、美術批評家ジョン・ラスキンとの徹底した裁判に代表される芸術論争も、当時の画壇やメディアの注目を集めました。

### ホイッスラーと蝶

ホイッスラーは日本の家紋から着想を得て、自分のイニシャル「JW」を蝶の形に図案化し、サインとして花押のように作品に描きこみました。このサインもホイッスラーのジャポニスムを象徴するものです。本展出品作品にも、蝶のサインのある作品が多数あります。ぜひ会場ですべて探してみてください。



ジェームズ・マクニール・ホイッスラー 1879年  
グラスゴー大学図書館スペシャルコレクション  
By permission of University of Glasgow Library,  
Special Collections



12羽の蝶(部分) 1890年  
ハンテリアン美術館(グラスゴー大学附属)  
© The Hunterian, University of Glasgow 2014

### 年表

- 1834 アメリカ・マサチューセッツ州ローウェルに生まれる。
- 1843 サンクトペテルブルグに移住。1849年までロシアで暮らす。
- 1851 ウェスト・ポイント陸軍士官学校入学。1854年退学後、アメリカ沿岸測地局図面部門に勤務しエッチングの技法を習得。
- 1855 画家を志しパリに渡る。クールベやファンタン＝ラトゥールと出会い、フランスのリアリズムに傾倒。
- 1859 ロンドンに移住。
- 1863 ラファエル前派の画家たちと親交を結ぶ。この頃から日本の文物の収集を始める。
- 1867 音楽的タイトルを付けた初めての作品として『白のシンフォニー No.3』が展示される。
- 1871 テムズ川の夜景を描く風景画「ノクターン」シリーズを描き始める。
- 1877 《黒と金色のノクターン：落下する花火》(デトロイト美術館蔵)を発表。作品を酷評した美術批評家ジョン・ラスキンを名誉棄損で訴え裁判となる。
- 1879 前年のラスキンとの裁判に勝訴したものの、わずかな賠償金しか得られず破産。その後ヴェネツィアに滞在し、エッチングを制作。
- 1885 『10時の講演』を行い、自らの唯美主義に関する考えを示す。
- 1886 王立英国芸術家協会の会長に就任(2年後辞任)。
- 1888 モネの紹介で詩人のステファンヌ・マラルメと知り合う。8月、ピアトリクス・ゴドウィンと結婚。
- 1890 『敵をつくる優美な方法』出版。後にホイッスラーの主要コレクションを形成するチャールズ・ラング・フリーアと出会う。
- 1891 グラスゴー市が《灰色と黒のアレンジメント No.2: トーマス・カーライルの肖像》を買い上げたことにより、初めて公の美術館に作品が収蔵される。
- 1892 ロンドンで初の大規模な回顧展開催。
- 1898 国際彫刻家・画家・版画家協会会長に就任。
- 1903 ロンドンにて死去。

## 人物画

Portraits

色彩と構図の調和が生み出す  
静謐なる人物像

本展出品作である《灰色と黒のアレンジメント No.2: トーマス・カーライルの肖像》は、ホイッスラーの代表作のひとつです。タイトルが示すように、ヴィクトリア朝の英国を代表する高名な人物を描きつつも、ホイッスラーはその絵画の目指すところを色と形のアレンジメント(調和、音楽用語では編曲を意味する)として表現しました。また他の人物画においても、「シンフォニー」や「ハーモニー」など、音楽を連想させるタイトルがつけられています。ホイッスラーは、当時の英国絵画の特徴であった道徳や教訓的な内容を伝える「物語る絵」を否定しました。そして、色と形の調和を探求することで、絵画の中に純粋な視覚的喜びを生み出そうとしたのです。



1  
《灰色と黒のアレンジメント No.2: トーマス・カーライルの肖像》  
1872-73年 グラスゴウ美術館  
© CSG CIC Glasgow Museums Collection

19世紀の英国を代表する歴史家・批評家トーマス・カーライルの肖像。注意深く調整された灰色から黒にいたる色の階調と、垂直線・水平線を強調した幾何学的な構図が調和した、ホイッスラーによる肖像画の代表作。



2 《タイム・リジスの小さなバラ》1895年 ボストン美術館  
Museum of Fine Arts, Boston,  
Warren Collection-William Wilkins Warren Fund,  
96.950. Photograph © 2014 MFA, Boston



3 《灰色のアレンジメント: 自画像》1872年  
デトロイト美術館  
© Detroit Institute of Arts, USA / Gift of Henry  
Glover Stevens / The Bridgeman Art Library



4 《バルコニーの傍で》1896年 シカゴ美術館  
photography © The Art Institute of Chicago

痛に侵された最愛の妻、ピアトリクスの療養中の姿。妻の衰弱が受け入れられなかったホイッスラーは、試し刷りをしただけで原版を壊してしまったため、このリトグラフは4点しか現存が確認されていない。

## 風景画

Landscapes

始まりは正確な自然描写、  
やがて詩情奏でる表現へ

ホイッスラーは、「自然は色や形など、すべての絵画の要素を含んでいる」(「10時の講演」1885年)と述べ、自然の中に絵画を生み出す要素を求めました。そして、これらの要素を熟練した技によってキャンバスに調和させることが、芸術家の役割であると主張します。

ホイッスラーの画歴はリアリズム(写実主義)への傾倒から出発し、晩年に至るまで自然への敬意を忘れませんでした。しかし、その表現は、初期から晩年の間に大きく変化します。《肌色と緑色の黄昏:バルバラライツ》にも見られるように、彼は、徹底した写実的表現から遠ざかり、色や形といった、より純粋な絵画の要素に関心を持つようになります。つまり、自然の「正確な描写」ではなく、その「芸術的な印象」を絵画という手段を用いて詩情豊かに表現したのです。



5  
《肌色と緑色の黄昏:バルバラライツ》  
1866年 テート美術館  
© Tate, London 2014

ロンドンでの閉塞的な生活から逃れるように訪れた南米チリで描いた作品。黄昏のひとつきが、紫、水色、肌色などの微妙な色調の変化によって表現されたこの作品は、リアリズムから唯美主義への転機を示すものであり、後に「ノクターン」と呼ばれる一連の風景画の最初の試みでもある。



6 《オールド・ウェストミンスター・ブリッジの最後》1862年 ホuston美術館  
Museum of Fine Arts, Boston, A. Shuman Collection-Abraham Shuman Fund,  
39.44. Photograph © 2014 MFA, Boston



7 《チェルシーの通り》1888年頃 イェール英国芸術センター  
© Yale Center for British Art, Paul Mellon Collection

長年居住したチェルシー地区を描いた水彩作品。より精緻な表現を求めたホイッスラーにとって、水彩は油彩では出せない繊細さを表現できる魅力的な画材であった。



8 《プラターニューの海岸(ひとり瀧沙に)》1861年  
ワズワース・アテネウム美術館  
Wadsworth Atheneum Museum of Art / Art Resource, NY

## ジャポニスム

*Japonisme*

日本の美に魅了されて  
創出した新たな美

19世紀後半から20世紀初頭にかけて、日本の美術・工芸作品は西洋の多くの芸術家たちを魅了し、彼らの新しい造形表現の原動力となりました。ホイッスラーも浮世絵や工芸品などの日本美術からインスピレーションを得た画家のひとりです。ホイッスラーにとってのジャポニスムは、単なる造形表現の模倣やエキゾティシズム(異国趣味)にとどまらず、彼が唯美主義者としてオリジナリティを確立させるための重要な要素でした。「芸術のための芸術」を追求したホイッスラーのジャポニスムは、「ノクターン」という音楽的なタイトルで表された一連の風景画においてある一定の完成をみます。《ノクターン：青と金色ーオールド・バターシー・ブリッジ》や《青と銀色のノクターン》は、その中でも最も洗練された代表作です。

ホイッスラーが  
影響を受けた  
浮世絵も展示します



歌川広重  
『名所江戸百景』のうち《京橋竹がし》  
安政4年(1857) 大英博物館  
© The Trustees of the British Museum



9  
《ノクターン：青と金色ーオールド・バターシー・ブリッジ》  
1872-75年 テート美術館  
© Tate, London 2014

テムズ川岸から上げられた花火を背景に、木製のオールド・バターシー・ブリッジがシルエットのように浮かび上がる。見上げるように橋をクローズアップした構図や、青を基調とした色彩のグラデーションには、歌川広重『名所江戸百景』《京橋竹がし》からの影響が見られる。



10 《青と銀色のノクターン》  
1872-78年 イェール英国芸術センター  
Yale Center for British Art, Paul Mellon Fund

抑えた色彩による微妙な階調の変化で描かれた風景画「ノクターン」シリーズの代表作。夕闇のテムズ川に船頭が漕ぐ舟が静かに浮かぶ。遠近法を欠いた構図や色調の変化に主眼がおかれた表現には、浮世絵や水墨画など日本美術の影響が認められる。



11  
**《白のシンフォニー No.2:小さなホワイト・ガール》**  
 1864年 テート美術館  
 © Tate, London 2014

ラファエル前派への傾倒とジャポニズムの要素がみられる作品。団扇や朱塗りの椀、青い染付の白磁の壺などの東洋の品々と、モデルであるホイッスラーの愛人ジョアンナ・ヒファーン(愛称ジョー)の纏うヴェネツィア風の白いモスリンのドレスが絶妙なコントラストを生み出している。



12  
**《紫とバラ色:6つのマークのラング・ライゼン》**  
 1864年 フィラデルフィア美術館  
 © Philadelphia Museum of Art

陶器に絵付けする女性を中心に日本や中国の品が多数描かれた本作品は、ホイッスラーの「オリエンタル・ペインティング」と呼ばれる異国趣味あふれる作品群の最初のもの。タイトルの「6つのマーク」は康熙帝期の「大清康熙年製」という銘、「ラング・ライゼン」は長身の女性像が描かれた東洋風のデルフト焼にちなむ。



13  
**《白のシンフォニー No.3》**  
 1865-67年  
 バーバー美術館(バーミンガム大学附属)  
 The Barber Institute of Fine Arts, University of Birmingham

音楽的なタイトルを冠して展示された初めての作品。描かれた2人の女性は、団扇や草花と同様に、絵画の美的効果のために描かれているように見える。この装飾的な画面には、「主題」がなく、当時の教訓的絵画を否定し、「芸術のための芸術」を探求した画家の信念が表れている。それは画面左下に書き添えられた“Symphony”の文字からも読み取れる。

# 特別展示映像：ピーコック・ルーム

— ホイッスラーの美学が体现された空間 —

《青と金色のハーモニー：ピーコック・ルーム》は、ホイッスラーによる現存する唯一の室内装飾で、パトロンであるフレデリック・レイランドのためにデザインしたダイニング・ルームでした。レイランドは、東洋の陶磁器コレクションとホイッスラーの絵画《バラ色と銀色：陶器の国の姫君》を飾る部屋のデザインを建築家ジェキルに依頼しましたが、途中からホイッスラー自身が関わるようになり、最終的には、部屋全体がホイッスラー作品となってしまいました。さまざまな時代様式と国を超えた美を折衷的に取り入れたこの部屋は、万博などを通して美の価値観が多様化したヴィクトリア朝を代表する芸術作品ともいえます。

本展会場では、現在フリーア美術館(アメリカ)に移築されているこの部屋を映像で詳細に紹介します。



《青と金色のハーモニー：ピーコック・ルーム》1876-77年 フリーア美術館  
© Freer Gallery of Art, Smithsonian Institution, Washington, DC:  
Gift of Charles Lang Freer, F1904.61, F1905.100

## 京都展

### 京都国立近代美術館

The National Museum of Modern Art, Kyoto

会期 2014年9月13日(土)~11月16日(日)

休館日 月曜日(月曜日が祝日・振替休日の場合はその翌日)  
\*ただし、9月22日(月)、10月14日(火)、11月4日(火)は開館

開館時間 9:30~17:00  
\*入館は16:30まで

アクセス 京都市左京区岡崎円勝寺町  
電話 075-761-4111  
\*市バス「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ  
地下鉄東西線「東山駅」下車徒歩約10分

主催 京都国立近代美術館、NHK京都放送局、NHKプラネット近畿、京都新聞

協賛 あいおいニッセイ同和損保、テラ・アメリカ美術基金、日本写真印刷

観覧料(税込)	当日	前売/団体
一般	1,500円	1,300円
大学生	1,100円	900円
高校生	600円	400円

- \*団体は20名以上
- \*中学生以下、心身に障がいがある方とその付添者1名は無料(要証明)
- \*「ホイッスラー展」の観覧券でコレクション展も観覧可
- \*前売券の販売期間は8月1日から9月12日まで(会期中は当日券のみ販売)
- \*「ホイッスラー展(京都展)」と「ボストン美術館 華園なるジャポニスム展(京都市美術館、9月30日~11月30日)」の2展の早割セット券を7月1日から7月31日までの期間限定で販売(1セット2枚で2,000円、一般のみ、各展を1回ずつ観覧可)
- \*チケット取り扱い/オンラインチケット(公式サイト)、各種プレイガイド等

京都展 | TMオフィス内、担当：馬場、審城  
広報事務局 | E-mail: jm-whistler@tm-office.co.jp  
Tel: 06-6231-5400 Fax: 06-6231-4440  
〒541-0046 大阪市中央区平野町4-7-7 平野町イシカワビル

## 横浜展

### 横浜美術館

Yokohama Museum of Art

会期 2014年12月6日(土)~2015年3月1日(日)

休館日 木曜日、12月29日(月)~1月2日(金)  
\*ただし、12月25日(木)は開館

開館時間 10:00~18:00  
\*入館は17:30まで  
\*夜間開館:12月22日(月)~24日(水)は20:00まで開館(入館は19:30まで)

アクセス 横浜市西区みなとみらい3-4-1  
ハローダイヤル 03-5777-8600  
\*みなとみらい線「みなとみらい駅」下車徒歩3分  
JR線・横浜市営地下鉄線「桜木町駅」下車徒歩10分

主催 横浜美術館、NHK、NHKプロモーション

協賛 あいおいニッセイ同和損保、テラ・アメリカ美術基金、日本写真印刷

協力 FMヨコハマ、神奈川新聞社、首都高速道路株式会社、みなとみらい線、横浜ケーブルビジョン

観覧料(税込)	当日	団体	前売
一般	1,500円	1,400円	1,300円
高校・大学生	1,100円	1,000円	900円
中学生	600円	500円	400円

- \*団体は20名以上、要事前予約
- \*毎週土曜日は高校生以下無料(要生徒手帳・学生証)
- \*小学生以下、および障がい者手帳をお持ちの方と介助の方(1名)は無料
- \*観覧当日に限り「ホイッスラー展」の観覧券で横浜美術館コレクション展も観覧可
- \*前売券の販売期間は9月16日から12月5日まで(会期中は当日券のみ販売)
- \*先行ペア券を8月1日から9月15日までの期間限定で販売(1セット2枚で2,000円、一般のみ)
- \*チケット取り扱い/オンラインチケット(公式サイト)、各種プレイガイド等

横浜展 | ディシス内、担当：高橋、青木  
広報事務局 | E-mail: jm-whistler@artplus-inc.com  
Tel: 03-6863-3409 Fax: 03-5414-7966  
〒106-0032 東京都港区六本木4-8-7 六本木三河台ビル7F

展覧会公式ホームページ

<http://www.jm-whistler.jp>

**TERRA**  
FOUNDATION FOR AMERICAN ART

This exhibition is made possible through support from the Terra Foundation for American Art.

An exhibition in association with  
The Hunterian, University of Glasgow